

Oyama

2025年10月31日
町田市立小山小学校
校長 三瓶 昌信

町田市小山町944番地
TEL 797-2733

<http://www.machida-tky.ed.jp/e-oyama/>

学校、学級はワンダーランド

校長 三瓶 昌信

28日の運動会には、平日開催にもかかわらず、たくさんの保護者の皆様にご参観いただき、誠にありがとうございました。心配していた校庭のコンディションも問題なく実施できました。残念ながら、お仕事等のご都合でお越しいただけなかった方もいらっしゃったことと思います。私が赴任して2年連続で運動会を延期しており、少し複雑な気持ちではあります。（雨男ではないと自負しているのですが…）

日常の教育活動でも感じるのですが、こうした大きな行事で子供たちの姿を見てみると、改めて「子供ってすごいなあ」と実感します。走ることが得意な子の躍動感あふれる姿、応援団長や応援団を中心に大声で声援を送る姿、運動が得意でなくても、競技中に失敗してしまっても最後まで全力を尽くす姿…等、一人一人の子供たちを見てみると、思わず胸が熱くなります。閉会式後、「リレーで負けて悔しかった」と涙を流している子がいました。こういう場面が大好きです、感動します！「おやまっこ」には、このように素直に喜怒哀楽を表現する子がたくさんいます。（時にはその感情が行き過ぎることもあります…）

近年、様々な活動で「違いや差が出ないように」「目立たないように」…と、大人たちの思いで、「平均化」する傾向が強くなっていると感じています。「個性」という言葉を、最近あまり耳にしなくなったように思います。

私は学校、学級は「ワンダーランド」と考えています。そこには美しいもの、不思議なものがあふれています。様々な個性あふれる子供たちがいます。共に笑い、共に哀しみ、時には衝突し、辛い思いもするでしょう。しかし、仲間と共に活動する中で、多くのことを学び、成長していきます。

金子みすゞさんの有名な詩に「みんなちがって、みんないい」という言葉があります。また、相田みつをさんの詩にも「セトモノとセトモノと ぶつかりっこするとこわれちゃう どっちかやわらかければ だいじょうぶ やわらかいところをもちましよう そういうわたしはいつもセトモノ」とあります。誰もが素敵な詩だと感じるものですが、いざ実行しようとする、なかなか思うようにはいきません。「わかっているけど…」次の1歩が難しいのです。

学校、学級でも同様です。一人一人の子供に寄り添う。友だち、仲間に寄り添うことの大切さを改めて感じます。そうした温かな関係を大切に、共に成長していきたいです。一人一人の子供のよさ、すごさを見つめ、それを見つける努力を続けていきます。

★人権教育、ジェンダーフリー教育の推進（今後さらに充実させていきます）

今回の運動会は、人権教育、ジェンダーフリー教育の観点から以下の取組を行いました

○パラスポーツ用車いすを活用したリレー（4年）

町田市と公益財団法人 日本財団パラスポーツセンターの協力による「インクルーシブ運動会」

○男女混合による徒競走

20年ほど前から朝会や集会時の整列は男女混合にして取り組んでいる学校があります。本校も今年度から実施しており、運動会の徒競走にも適用しました。